

平成 21 年度 自閉症に対応した教育課程の在り方に関する 調査研究事業 中間報告書

1 研究のねらい

石川県立総合養護学校は、知的障害のある児童生徒と肢体不自由のある児童生徒が共に学べる県内初の特別支援学校として、平成 18 年度に肢体不自由教育部門を先行開校し、平成 20 年度には知的障害教育部門を開設した。

知的障害教育部門には自閉症の診断またはその疑いのある児童生徒が多く在籍しており、児童生徒の実態や特性の把握、見通しのもちやすい学習環境の整備、わかりやすい教材・教具の製作・活用など、個々のニーズに応じた授業づくりに努めている。しかし、計画的・組織的な体制は不十分なところもあり、実践を深め指導を蓄積するまでには至っていないことなどが課題となっている。

そこで本研究事業では、医師や発達障害の専門家を招聘しての研修会を実施するとともに、授業研究をとおして、教員が互いに意見を出し合い実践を検討することで、自閉症のある児童生徒一人一人に応じた支援についての理解を深め、より効果的な教育内容・教育方法を模索し、より良い教育課程の編成をめざして研究を進めることとした。

2 研究内容

1. 障害特性の理解と適切な対応

すべての教員が自閉症の障害特性の理解と適切な対応の方法を学び、将来の生きる力を育む教育体制と効果的な支援の在り方を検討する。

2. 学習環境整備と教材づくり

現在の学習環境を見直し、自閉症のある児童生徒が安心して学習できるよう、学習環境を整備（構造化）し、見通しのもてる時間・空間づくりにつとめる。併せて、一人一人の実態に応じた教材・教具の製作・活用に取り組む。

3. 自閉症の障害特性を踏まえた授業づくり

自閉症のある児童生徒に応じた指導内容や指導方法について検証し、個々のニーズに応じた個別の指導計画等を作成・活用し、より良い授業づくりを行う。

3 評価の方法

1. 評価の観点

- ・自閉症の障害特性の理解を深め、適切な対応をしているか。
- ・自閉症の児童生徒が安心して学習できる環境整備や教材活用を行っているか。
- ・自閉症の児童生徒の個々のニーズに応じた授業づくりを行っているか。

2. 評価方法

- ・教員に対して「障害の理解・対応・環境整備・授業づくり」の自己評価を実施
 - ・スーパーバイザー及び研究運営協議会委員による「障害の理解と対応、環境整備、授業づくり」等の外部評価
 - ・教員及びスーパーバイザーによる授業評価
- ※スーパーバイザーは愛媛大学教育学部教授 上岡一世氏

4 研究経過

1. 本校の自閉症教育に関する実態

1) 現状と課題

- ・自閉症の診断またはその疑いのある児童生徒は多く、特に小学部及び中学部においてその割合は高くなっている。（平成21年度知的障害教育部門全体：47% 小学部：68% 中学部：43% 高等部：33%）
- ・自閉症教育充実の重要性を認識しながらも、指導内容や教材等の工夫は担当教員の裁量に任せている実態がある。
- ・すべての教員が共通様式の指導案を作成・活用し、個別の指導計画との関連を明確にした授業実践に取り組み、その成果も上がっている。しかし、自閉症のある児童生徒への支援方法やコミュニケーションの在り方、ニーズに応じた授業内容等について、多くの教員が今後改善していきたい教育課題と感じている。

2) 教員の自閉症教育に関する意識調査

この研究を行うにあたって、平成21年7月末に、教員の自閉症のある児童生徒への関わり方や、自閉症に対する意識等の実態調査を行った。

質問は4項目とした。回答は、A：あてはまる、B：ややあてはまる、C：あまりあてはまらない、D：あてはまらないとし、学部ごとに集計結果を出した。

ア 結果分析

A) 質問1 「自閉症のある児童生徒の指導に困難さを感じているか」

この質問に対するAとBの合計は全体の80%であり、小学部は70%の教員がAと回答した。こだわりやパニックへの対応、集団参加等が難しいという回答が多く、このことから、多くの教員が指導の困難さを感じていたと考えられる。

B) 質問2 「他の障害のある児童生徒とは異なった対応を心がけているか」

この質問に対するAとBの合計は全体の87%であった。特に指示や提示の仕方などにおいて、他の障害のある児童生徒とは異なる対応が必要だということが、どの学部でも共通理解されていたと考えられる。

C) 質問3「障害特性に応じた教材等の工夫をしているか」

この質問に対するAとBの合計は全体の78%であった。視覚的な支援や見通しがもちやすい教材の工夫等をしているという回答が多く、このことから、多くの教員が何らかの配慮をしていたと考えられる。

D) 質問4「自閉症のある児童生徒への対応の仕方について、教員集団で共通理解を図り対応しているか」

この質問に対するAとBの合計は、小学部は85%、中学部は93%と高い数値を示したが、高等部は62%とやや低かった。小学部と中学部では、定期的に支援会議や学年会などを放課後に開催し、児童生徒について話し合う時間をもつことができている。しかし、高等部では授業時数が多く、職場実習などもあり、話し合う時間の確保が難しいからだと考えられる。

2. 自閉症理解に関する学習会

本校教員の実態を受け、自閉症の理解を深める目的で、外部講師による教員対象の学習会を実施した。

1) 学習会「自閉症について」：金沢こども医療福祉センター医師 井幕充彦氏

この学習会では自閉症の大学生のケースを取り上げ、グループに分かれて事例検討会を行った。自閉症のある人の考え方や支援の仕方、対応について熱心な討論が行われた。その後、各グループで話し合った事例をもとにして丁寧な説明を受け、自閉症の特性について学んだ。

2) 講演会「自閉症の理解と効果的支援」：愛媛大学教育学部教授 上岡一世氏

この講演会では自閉症の障害特性と効果的な支援について学んだ。今後、自閉症の研究を進めるにあたって我々教員の意識を変える内容であった。要約は以下のとおりである。

自閉症の障害特性を正しく理解して適切に関われば児童生徒は必ず成長する。自閉症のある児童生徒への基本的な対応の仕方は、対症療法では不十分である。将来を見通して、はじめから正しいことを適切に教えることが大切である。今行っていることが、将来どのようにつながるかを考えて指導することが必要である。

教育支援の目標は、自閉症という障害をなくすことではない。能力・障害に応じて支援の量や質を変え、工夫することが特別支援教育である。思考を伴う主体的な行動を引き出す支援が今求められている。

3. 第1回自閉症研修会

愛媛大学教育学部教授 上岡一世氏をスーパーバイザー(以下、上岡一世氏はスーパーバイザーとして表記)として招聘し、授業を参観していただき診断・助

言を受けた。

1) スーパーバイザーによる授業診断

ア 小学部

授業づくり（課題学習）について

- ・間違いを間違えたままにしない。
例：文字なぞりの課題で違った書き順で書いている場合、その都度、正しい書き順を教えなければならない。そのままでは、児童は順番になぞらなくてもよいと思ってしまう。
- ・パターン化した行動ではなく、見通しをもち、考えて行動するための指導が大切である。準備、実行、片付けまでの一連の流れとして支援することが、次に何をすればよいのか考えることへとつながる。これが児童生徒の見通しとなる。今の課題ができるようになったら新しい次の課題を用意し、思考し、判断する力を育てることが大切である。
- ・学年進行、段階的な指導、学年のつながりを見直す必要がある。段階を踏まえ個々の認知の力をきちんと引き継いでいるかの視点が大切である。

学習環境の整備について

- ・教室等の学習空間の構造化をはかり、情報、教材等を整理する必要がある。
- ・児童に何を求め、何を教えたいのかを明確にし、必要な情報量を考える。
例：日課ボードの順番の数字は量も表すものである。順番を教える時に数字が不要な情報となる場合がある。今、何を伝えたいのかねらいを明確にして情報を提示する。

イ 中学部

授業づくり（作業学習）について

- ・がんばって働こうとする気持ちをもたせ、生徒の働く意欲を培うことが作業学習の目標である。
- ・がんばる気持ちを継続させるには、結果を評価して誉めることが大切である。製品を販売してお客さんから評価が得られれば、より生徒の気持ちが高まる。
- ・地域社会に通用する製品を作るという教員の姿勢が必要である。
- ・中学部では生産量をそれほど意識せず、良い製品を丁寧に時間をかけて作る姿勢を育てることが大切である。
- ・作業学習は取り組む内容がはっきりしており、取り組みや製品を評価しやすいことから自閉症の指導に適している。

障害の理解と対応について

- ・作業学習でしっかり活動ができるようになると、他の教科等でも良い結果が見えてくる。

ウ 高等部

授業づくり（作業学習）について

- ・授業のねらいにそった、支援や手だてが必要である。
- ・生徒にどのような力をつけ、育てるのか明確にする。なぜ今、その支援や手だてをするのか説明できる必要がある。

障害の理解と対応について

- ・生徒の得意な点を見つけ、生かし育てることが自閉症の生徒の生活を豊かにする上で重要である。
- ・将来の生徒のビジョンを明確にし、生徒に関わる全教員が共通理解する必要がある。

2) スーパーバイザーによる助言

これからの特別支援教育は、全ての児童生徒の「自立」「社会参加」「就労」を目指すものである。キャリア教育の視点から、小学部から高等部までの12年間全体を見直す必要がある。

ア 自閉症教育の3つのポイント

応用・般化できる児童生徒に育てる

- ・自分で考えて行動する児童生徒を育てることが大切である。

見通しの立つ学習を展開する

- ・「準備から片付けまで」等の活動の工程を増やし、見通しをもって活動できることが大切である。

児童生徒の主体的な活動を目指す

- ・教員の指示、支援なしで自ら考えて意欲的、目的的に行動する児童生徒を育てることを目指す。

イ キャリア教育に向けての2つの視点

勤労観＝社会参加と自立に向けての基盤となる態度

- ・小学部1年生から高等部3年生まで平均的に必要な力である。
- ・児童生徒が今もっている力を100%発揮し、貢献する生活を目指す。こうした生活の積み重ねが勤労観を育てる。そのためには基本的な生活習慣の確立は発達的に不可欠である。生活意欲を高めることで勤労観は養われる。学級の児童生徒全員の存在価値を高める学級経営が大事になる。

職業観＝実際に通用する働く力、職業的な自立に必要な知識・技能・態度

- ・勤労観が育っていないと職業観は育たず、働く喜びを感じることはできない。遊びやお手伝い、生産活動など児童生徒の年齢に応じた働く活動の積み重ねが大切である。訓練をすれば働くことはできるが、就労に結びつくとは限らない。

ウ 支援のポイント

構造化

- ・児童生徒が思考できる学習内容、環境設定を行う。
- ・QOLを低下させない。構造化の意味を理解して支援をすること。

映像化

- ・見る・聞く、の両方を使って働きかける。
- ・言葉で働きかけても理解できにくいことを分かりやすく伝える。

ベースラインの把握

- ・今の児童生徒の生活やありのままの姿を見ることが大切である。
- ・教員が何も指示しない時、子どもが何を意識し、何を思い行動しているかを見る必要がある。ベースラインに立って初めて本当に必要な支援や手だてが見えてくる。

4. 第2回自閉症研修会

スーパーバイザーに小学部、中学部、高等部の研究授業を参観していただき、各授業について指導助言を受けた。

1) 研究授業

ア 小学部の取り組み

本校小学部の児童は、約7割が自閉症の診断またはその疑いがある。自立活動の時間における指導が週3時間あり、どのような目的で、どのような内容や活動を行えばよいか話し合われることが多くあった。そこで本研究では、自立活動を取り上げ、自閉症のある児童の自立を目指すための指導に取り組むことにした。

A) 研究授業概要

a) 対象授業

自立活動 「絵カード合わせをしよう」

b) 対象児童と実態

1年生4名（自閉症4名）

簡単な指示理解ができ、日課の絵カードや場所カードは理解し、マッチングができる。活動内容を写真や絵カードで提示し、場の設定を毎回同じにすることで、見通しをもって安定して取り組める。一人遊びや、教員との活動が多い児童である。



絵カード合わせをしよう

c) 授業内容

「集団活動をとおして、順番等の社会性を身につけてほしい」「友達を意識してほしい」という願いから、ルールを守りながら友達と取り組む「絵カード合わせゲーム」を行うことにした。

絵カードは児童の興味を引きやすい、お菓子の写真カードを利用した。繰り返し行うことで、見通しがもちやすいようにした。さらに、児童の主体性を引き出すために、声かけを減らし見守ることとした。

B) スーパーバイザーによる授業整理会における助言

本時の目標の明確化

- ・ 集団活動における目標が明記されていない。
- ・ 児童がルールをどれだけ理解しているか、客観的な尺度によるアセスメントを行い、ベースラインを明確化する。
- ・ 授業をとおして、ねらいたいことは何かを検討し、1時間の授業の中で達成できる具体的な目標を設定する。

スケジュールボードの活用について

- ・ スケジュールボードが活用されていない。
- ・ 児童がスケジュールボードを見て活動できているか、スケジュールボードが機能しているかを検討する。

イ 中学部の取り組み

本校中学部の生徒は、約4割が自閉症の診断またはその疑いがある。学年毎の集団で学習をすることが多く、個々の生徒の課題や授業内容についての話し合いを多く行っている。研究では教科学習を取り上げ、自閉症のある生徒を含めた生徒同士の関わりの中で、一人一人の主体的な活動を目指した。

A) 研究授業概要

a) 対象授業

国語科 「ねぼうしたねこ」

b) 対象生徒と実態

3年生9名（自閉症3名）

友達同士よりも、教員との関わりが主となる生徒が多い。発音はないが絵や語りかけに応じ活動に参加できる生徒から、プリント学習に一人で取り組める生徒まで、実態は幅広い。



プリント学習

c) 授業内容

友達同士の関わりが充実し、考え感じたことを友達に伝えようとする意欲と伝えるための表現力をつけてほしいと願い、集団学習を行うこととした。

見通しがもちやすいように、授業の流れを固定化し、プリントをとおして、繰り返し読む、書く、聞く活動を行うようにした。将来の自立につながる自己選択、自己決定の場面を意識して設けた。

B) スーパーバイザーによる授業整理会における助言

キャリア教育の視点から

- ・今、行っている学習が、将来の生活でどのように生かされるのか考える。
- ・自閉症の生徒は、体験を多くすることが、学習の般化につながる。
- ・集団学習の質をあげるためには、個の学習の充実が必要である。

チームティーチングについて

- ・メインティーチャーと、サブティーチャーの役割分担を明確にする。
- ・サブティーチャーの支援目的、方法を明確にする。

ウ 高等部の取り組み

本校高等部の生徒は、約3割が自閉症の診断またはその疑いがある。作業学習の取り組みは、平成20年度（知的障害教育部門開設時）から始まり、今年で2年目であるため、作業種や作業体制は検討中である。特に自閉症のある生徒にとっての「作業学習」や「働く力」をどう捉え、育てればよいかを課題であり、何度も話し合ってきた。そこで、本研究では作業学習を取り上げることとした。

A) 研究授業概要

a) 対象授業

作業学習 「紙すき製品づくり」

b) 対象生徒と実態

トータルクリエートグループ和紙班 生徒9名（自閉症6名）

（トータルクリエートグループ：陶芸、木工、紙すきの製品を製造販売）

一般就労希望生徒2名、福祉就労希望生徒7名が所属している。言語指示がわかる生徒から、視覚支援が必要な生徒、強いこだわりを見せる生徒等、実態は幅広い。

c) 授業内容

生徒の興味・関心に基づき、工程毎に4グループに分けた。(①紙ちぎり②ミキサーがけ③紙すき④製品の袋詰め) 工程毎に、材料や道具の置き場所を文字や写真カードで提示した。グループの作業机に工程表を設置し、準備や片付けを一人で行えるよう、個に応じた道具類のカードを作成した。一般就労希望生徒には、工程表を渡し、教員は見守る程度とし、リーダーとしての役割を与えることを意識した。

B) スーパーバイザーによる授業整理会における助言

働く力を育てるための作業学習について

- ・同じ作業工程を繰り返し行うパターン化された作業学習では、働く力は育たない。
- ・質の高い売れる製品を扱い、生徒が一人で作業工程に取り組み、製品をとおして評価を得ることが、働く意欲を高め、働く力につながる。
- ・生徒が一人で取り組めるために、見通す力と思考・判断する力が必要となる。

工程表について

- ・生徒が一人で思考・判断しながら作業を行うための工程表である。
- ・生徒のベースラインを把握し、個々の実態に応じて、工程表の要・不要を検討する。

作業量の確保

- ・生徒が順番で作業を行うために、待つ時間が長くなる。
- ・自閉症の生徒は「待つ」「見る」ことは苦手であり、就労先では待つ時間はないため、生徒が一人で取り組める作業工程の提示が必要である。

2) 第2回自閉症研修会を終えての課題

キャリア教育の視点から

- ・キャリア教育の視点に立ち、見通す力と思考・判断する力を育てる学習活動を行う。

ベースラインの見極め

- ・児童生徒のベースラインを見極め、具体的な目標設定を行い、支援や手だて等を随時評価していく。

効果的な視覚支援について

- ・現在、使用している視覚支援(カード・スケジュールボード・工程表等)を児童生徒が活用しているか、見通す力や思考・判断する力を育てるために使用されているかを検討する。
- ・児童生徒に必要な視覚支援を精選していく。

5. 第3回自閉症研修会

前回の研修会で受けた指導助言をもとに、各学部で改善を行った授業をスーパーバイザーに参観していただき、指導助言を受けた。

1) 研究授業

ア 小学部の取り組みと改善点

前回同様、1年生4名の自立活動「絵カード合わせをしよう」を研究の対象とした。前回の課題をもとに以下の点を改善した。授業の様子をビデオ撮影し、複数の教員がチェックシートを用いながら児童のベースラインを把握した。S-M社会生活能力検査を行い、社会性についての発達段階も把握した。

実態把握を受けて、ゲームルールの簡略化を図った。ゲームだけではなく、準備や会食場面でも友達と関わる活動を取り入れることにした。また、必要な支援と、不必要な支援について検討した。

A) スーパーバイザーによる授業整理会における助言

目標の具体化について

- ・児童の実態をしっかり把握できている。
- ・教員が授業を評価するために必要な、具体的な目標が設定されている。

主となる活動の明確化

- ・ゲームルールの簡略化したことで、絵カード合わせゲームがパターン化され、短時間で終わった。
- ・児童にとって、1時間の授業でのねらいがゲームではなく会食となっている。児童が主となる活動を意識できるような工夫が必要である。

B) 成果と課題

ベースラインを把握することで、目標が具体化され、児童に合った活動内容を提示できた。さらに、支援の在り方を整理したことで、児童がスムーズに活動に参加するようになった。しかし、同じ活動を繰り返すだけでは、行動がパターン化されてしまう。児童の主体性を引き出すためには、思考・判断できる場面を意識して取り入れていくことが今後の課題である。

イ 中学部の取り組みと改善点

今回は、教科学習の音楽科の授業「世界中がともだち」を研究の対象とした。前回の課題をもとに、歌唱や器楽演奏、リズムダンスの活動をとおして、自閉症のある生徒も学習集団の中で音楽の楽しさを感じ、主体的に活動できるようにした。ピアノ演奏による活動の指示を行うことで、次の活動を分かりやすく提示した。学習の中に選択場面を取り入れ、主体的な活動を目指す機会を多く設けた。また、友達を見ながら活動を進める場面も多く設定することにした。

A) スーパーバイザーによる授業整理会における助言

教科の目標と個別の指導計画の目標の確認について

- ・個別の指導計画の目標をふまえて、各教科の授業の内容を考える必要がある。
- ・国語で学んだ読む力や伝えあう力を音楽で活用できるようにする。

生徒を飽きさせない授業

- ・生徒の様子を見ながら、次の活動へ移るタイミングがうまく取れている。
- ・生徒の集中を途切れさせない授業のテンポが良い。
- ・ピアノ演奏（音楽）の合図による授業の展開ができています。

チームティーチングについて

- ・メインティーチャーが一人で取り組める授業を検討する。
- ・メインティーチャーが一人で取り組めない部分をサブティーチャーに任せることや、サブティーチャーの役割をもっと明確にする必要がある。

B) 成果と課題

ピアノ演奏が合図になり、生徒は次の行動を理解し、少ない声かけで活動ができていた。自閉症のある生徒も友達の行動を見て、自分の行動の参考とし、さらに活動の見通しがもてるようになった。

自閉症の生徒に常同行動が見られる場面があった。これは授業に集中できていないことを示している。生徒の行動を細かく見ながら、学習環境の整備や授業展開の工夫をする等、生徒の集中力が高まるようにする必要がある。

ウ 高等部の取り組みと改善点

今回は、生徒10名（自閉症2名）が所属するM・Gサービスグループの食品加工班「大根漬け」を研究の対象とした。（M・Gグループ：メンテナンス・ガーデニンググループの略、野菜や花の栽培、漬物等を製造販売）

前回の課題をもとに、生徒の実態や適性、目標について再検討した。思考・判断する力がつくように、生徒が少し難しい作業ができるようなグループ編成を行った。グループ毎にリーダーを設け、生徒に作業を任せるようにし、リーダーを中心に、生徒同士が確認、判断し合う場面も設定した。

働く意欲が高まるように、具体的な作業目標を生徒と話し合って設定した。また、対面販売の機会を多くもち、売上金の還元化を図った。



大根漬け

A) スーパーバイザーによる授業整理会における助言

働く力を目指すために

- ・働く意欲に焦点をあてた取り組みは良かった。
- ・生徒が畑作業から食品加工、販売までの見通しをもって取り組んでいる。
- ・生徒の指示は教員の指示よりも効果的で、グループリーダーの存在は良かった。
- ・作業達成を生徒が判断できるように、「大根を曲げて端がくつつくまで」と、具体的な形で伝えられていた。
- ・生徒の「掃除できました」の報告に対して、次の活動を指示するのではなく、生徒が次の活動を考えられるような声かけができていた。

B) 成果と課題

作業学習に初めて取り組み、苦手意識のあった生徒も、見通しをもって最後まで働くようになる等、働く意欲は確実に高まってきた。自分で考え、判断しながら働くことが増え、教員からの声かけや指示が減り、一人で作業工程に取り組む姿が増えた。

しかし、グループリーダーへの依存が高まり、自ら考える前にリーダーに質問する生徒が増えた。今後は、思考・判断しながら取り組める作業学習を継続していくことが課題である。

2) 第3回自閉症研修会を終えての課題

キャリア教育の視点

- ・小学部では、日常生活動作と基本的な生活習慣を確立するとともに、意欲や主体性を育てることが重要となる。そのための支援や、学習活動ができているか検討していく。
- ・中学部では、生徒のQOLを高め、高等部につながる力を育てることが重要となる。自分で考え行動できる学習活動を展開できているか検討していく。
- ・高等部では社会に貢献する喜びを育てることが重要となる。良い製品づくりをとおして、働く喜びが感じられる作業種の検討や、思考・判断しながら取り組める作業活動を検討していく。

確かなアセスメント

- ・的確な実態把握をもとに、授業の目標を設定していく。
- ・効果的な支援の積み重ねと共通理解により、自閉症に対応した学習活動を展開していく。

6. 研究運営協議会

本協議会は学識者をはじめ専門の立場から委員を招聘し、自閉症の教育について助言等を受けるものである。

平成21年度は3回開催した。外部委員は以下の6名の方をお願いした。

- | | | |
|-------|------------------|--------|
| ・学識者 | 愛媛大学教育学部教授 | 上岡一世 氏 |
| ・医療機関 | 金沢こども医療福祉センター医師 | 井幕充彦 氏 |
| ・専門機関 | 発達障害者支援センターパース所長 | 中島章雄 氏 |
| ・施設関係 | 希望が丘支援課長 | 吉井昭二 氏 |
| ・就労関係 | 金沢公共職業安定所長 | 堀田政信 氏 |
| ・教育関係 | 県教委学校指導課指導主事 | 江川周一 氏 |

3回の協議会において出されたおもな意見は以下のとおりである。

1) 自閉症の障害特性の理解と適切な対応

- ・本事業の取り組みにおいて、教員全体で自閉症の理解等について共通理解ができたことは良かった。
- ・実態把握については教員の捉え方によって異なるので、客観的な視点でアセスメントすべきである。
- ・学校における一斉指導の中でできないことがあれば、その要因や背景を探る。問題行動を分析する中で、どのようなアプローチをするのか検討する。

2) 学習環境整備と教材づくり

- ・教材の活用は本当に生かされているのか、改めて確認する必要がある。

3) 自閉症の障害特性を踏まえた授業づくりと教育課程

- ・特別支援教育は、「自立」「社会参加」「就労」がキーワードであり、これは過去もこれからも変わらないが、最終目標ではなくなった。自閉症のある児童生徒のQOLやQWLをどう高めていくかということに視点が置かれるようになってきた。
- ・これからの特別支援教育の方向性に照らし、自閉症のある児童生徒の教育には、その質の向上が求められている。従ってその授業研究は、自閉症の教育の質を高めるようなものでなければならない。
- ・より効果的な教育内容や教育方法を積み上げることが、自閉症のある児童生徒に適した教育課程を作ることにつながる。
- ・新しい学習指導要領にはキャリア教育・職業教育の充実が位置づけられている。キャリア教育は自閉症のある児童生徒にこそ大切である。小学部、中学部、高等部がしっかりと連携しながら、それぞれの年齢に応じた指導を積み重ね、高等部卒業後の人生の質の向上につなげていく。このような視点をしっかりもって教育活動を続けていけば、自閉症のある児童生徒にとってより良い教育課程の編成につながるかと考える。

5 成果と課題

1. 1年間の研究成果

教員の自己評価及びスーパーバイザーによる外部評価から以下の点が成果としてあげられる。

- ・自閉症の障害特性への理解が深まり、個に応じた教材・教具の工夫や授業改善の必要性を教員が認識するようになった。
- ・自閉症のある児童生徒が安心して学習できる環境整備や教材製作を行った。
- ・自閉症のある児童生徒の実態把握、対応や支援に工夫が見られるようになった。
- ・スーパーバイザーの授業診断によって、授業で改善すべき課題が明確になった。

2. 2年次への課題

上記の成果はまだまだ十分なものではなく、さらに以下のような課題に取り組む必要があると感じている。

- ・児童生徒一人一人の実態把握をよりの確に行う力を身につける。
- ・教材・教具を製作するだけでなく、その活用の仕方や児童生徒への提示を工夫する。
- ・授業の中で児童生徒が主体的に活動する場面を増やす工夫をする。
- ・より良い教育内容や教育方法を蓄積することで、自閉症に対応した教育の質の向上を図る。

6 今後の展望

2年次は「一人一人が主体的に活動する授業づくり」をテーマに、小学部、中学部、高等部で一貫した支援を行うべく授業研究を中心に組みたい。

小学部では、平成22年度も、自閉症のある児童の自立活動の時間における指導において、よりの確なアセスメントから目標設定を行い、さまざまな学習活動に個々の児童が主体的に取り組めるよう、適切な指導内容や支援の方法を探っていきたい。また、中学部・高等部では、卒業後を見据え、作業学習において、自閉症のある生徒が自ら思考・判断し主体的に活動する支援の方法や指導内容について研究を深めていきたい。自立活動の指導と作業学習における効果的な支援を積み上げ整理し、自閉症に対応した教育課程の在り方を検討したい。